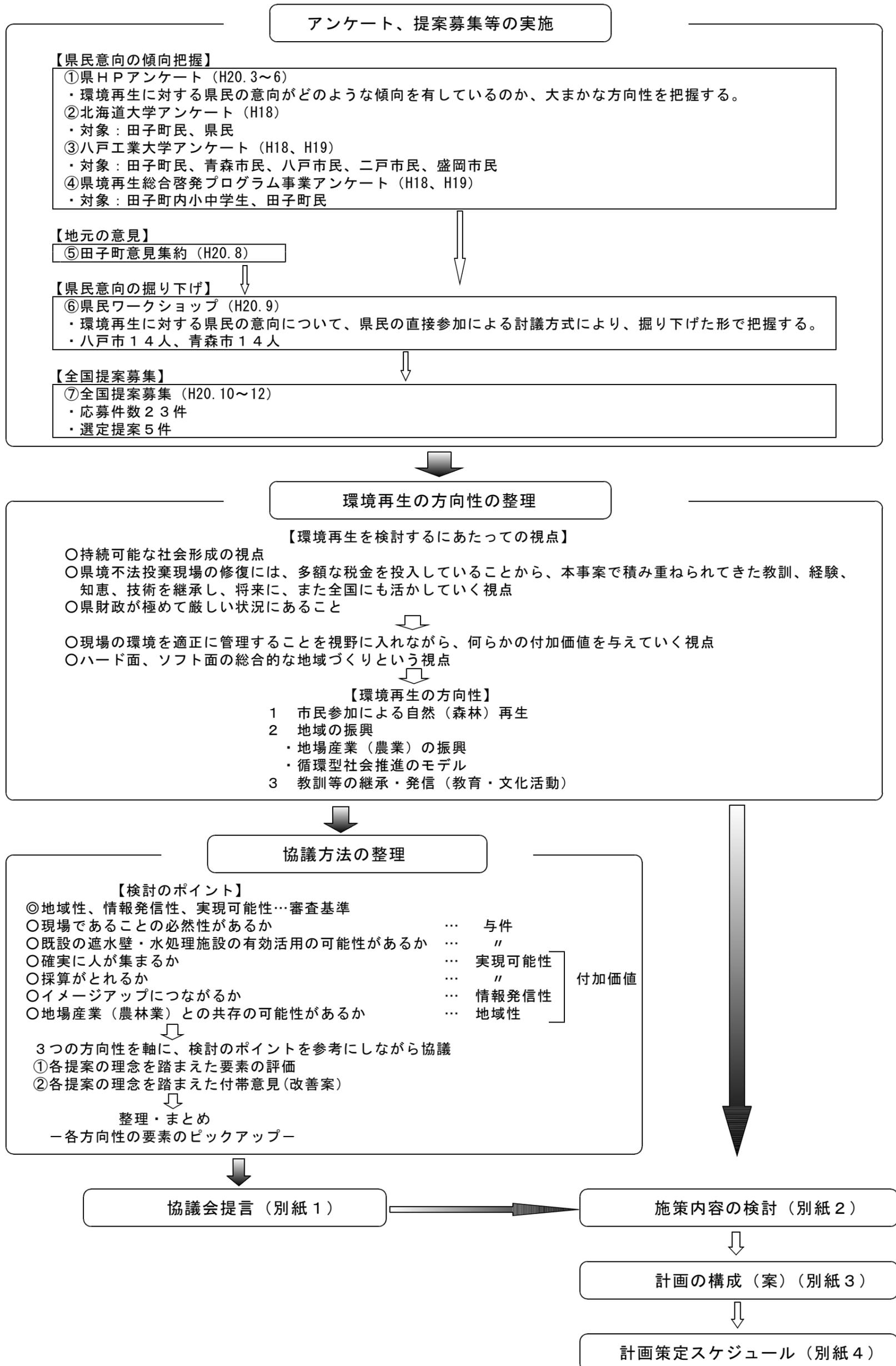


## 県境不法投棄現場環境再生計画の検討の流れ



## 協議会提言

環境再生の方向性	提案NO.	提案の要素	評点	付帯意見
I. 市民参加による自然(森林)再生	1	自然配植技術による植林	4.1	①環境再生の方向性や要素について、単独ではなく、組み合わせとして考えていただきたい。 ②自然(森林)再生は、市民参加型ということを重視していただきたい。 ③地域振興の視点を重視していただきたい。(ハード、ソフト両面の事業が考えられる) ④後世に継承するための資料館を是非整備していただきたい。 ⑤魅力の創造として、観光や廃棄物教育的な要素をキーワードとして考えていただきたい。 ⑥協議にあたって整理した検討のポイントをよく考慮していただきたい。
	3'	四季公園 森林公園 緑地公園	2.8	
	5'	緑地化 (芝生、桜、広葉樹)	3.4	
II. 地域の振興 ・地場産業(農業)の振興 ・循環型社会推進のモデル	2	エネルギー施設 農業ハウス、 再生緑地、研修施設	3.5	
	3	バイオ燃料化施設 資源リサイクル施設、 水処理施設	2.6	
	3	太陽光発電、風力発電	2.7	
III. 教訓等の継承・発信 (教育・文化活動)	3'	環境資料館	3.0	
	3'	管理棟 (保養施設機能)	1.9	
	4	環境再生博物館	3.3	
	4	文化行事の開催	3.3	
	4	若手芸術家の制作の場	2.2	
	5	環境再生資料館 (水処理施設の活用)	4.5	

## (各提案の概要)

- NO.1  
八戸市森林組合  
「自然配植の考え方に基づく県民参加型自然再生」  
自然配植の考え方(地域で育つ木の種を使い、それぞれの特性に合わせて植えること等)を基に、専門家指導型の一般市民参加イベントにより植樹する。
- NO.2  
東急建設(株)  
「資源循環型によるエコアグリカルチャー」  
竹林を再生し、木質バイオマス資源燃料施設により農業ハウスで利用する。  
将来的に水素ガス精製施設に切り替える。
- NO.3  
NPO・最終処分場技術システム研究協会  
「環境調和型廃棄物処理施設と四季公園」  
掘削空間、遮水壁、水処理施設を活用して、資源リサイクル施設、バイオ燃料化施設を整備する集客のための公園等を併設する。
- NO.4  
慶應義塾大学藤倉研究会  
「環境再生博物館でアートで発信」  
不法投棄の体験や研究機能を有する環境再生博物館を整備する。  
跡地を活用したコンサート等の文化行事や芸術家の創作拠点として情報発信する。
- NO.5  
八戸工業大学  
「教訓を次世代に語り継ぐ県境環境再生記念公園」  
芝生、桜、広葉樹の植樹により緑地化するとともに、水処理施設を資料館として活用する。

## 施策内容の検討

環境再生計画(素案)		施策の展開手法 (計画案で追加)
施策の内容	施策の内容についての県の考え方	
<b>I. 自然再生</b> ・植林による森林域を創出する。 ・植林は市民参加の手法で進める。 ・民間企業との連携方策等について検討する。	・現場の自然条件・地理的条件・インフラ条件や将来の維持管理負担等を総合的に踏まえ、集客を目的とした公園化等を行わず、自然再生そのものを目的に環境再生を図る。 ・市民参加型によるとの提言は、その意義を十分尊重する。	・周辺自然林と調和のとれた広葉樹(ブナ、ミズナラ等)の植林 ・地元・近隣の小中学生等による植樹祭
<b>II. 跡地の活用</b> ・跡地の有効活用について、全庁的に検討する。 ・県以外の実施主体で具体的事業の検討がなされる場合には現場内の適地を提供する。	・素案策定にあたって、現時点での現場跡地の有効活用に関する全庁調査(県以外の実施主体を含む)を実施した。活用の意向はなかったが、今後引き続き検討していく。 ・計画の記述は、将来の可能性に向け「検討する」に集約する。	・全国公募の提案者への事業化の働きかけ
<b>III. 情報発信</b> ・アーカイブを整備・公開する。 (原状回復の記録、環境再生の取り組み、全国関連事案・研究成果等) ・浸出水処理施設を活用した資料の展示・公開を行う(施設稼働期間内)。 ・現場に簡単な展示機能を有するモニュメントを整備する(施設稼働終了後)。	・地域(現場)のみでの情報公開にとらわれることなく、情報化社会における効果的・効率的な情報発信手段として、インターネットを最大限活用する。 ・県財政の状況から施設の新設は困難である。 ・既存の水処理施設の活用については、当該土地を原状回復事業の目的に使用することを前提に使用貸借している状況や将来の維持管理負担を踏まえ、水処理施設稼働期間内の活用とする。 ・水処理施設での資料展示終了後も、地域(現場)に事案の歴史や概要を伝えるための何らかの手立てを講じる必要がある。	○アーカイブ ・ビジュアル情報の効果的活用 ○資料展示 ・パネル、廃棄物サンプル等

## 計画の構成（案）

1. 計画の策定にあたって  
…計画策定の経緯、目的について記述する。
2. 計画の位置付け等  
…環境再生を進めていく全体の流れの中でのこの計画の役割について記述する。
3. 環境再生の方向性  
…検討の成果としての環境再生の基本的な3つの方向性について記述する。
4. 協議会における協議内容  
…協議会提言（別紙1）及び施策の展開手法への協議会意見を記述する。
5. 施策内容
  - （1）施策の構想  
…3及び4を踏まえ、環境再生全体の理念や将来の可能性も含めた施策を記述する。
  - （2）施策の具体化  
…（1）を踏まえ、県として取り組んでいく内容を記述する。
6. 実施スケジュール概要  
…原状回復事業との関係での各施策の大まかな実施スケジュールを示す。
7. 参考資料  
…各種アンケート結果、選定提案等

青森・岩手県境不法投棄現場・環境再生計画の策定スケジュールについて

